

Genius English Readings

「読み物」として使える教科書



萩野俊哉

1. はじめに：基本的な考え方

以前私はある英語教育雑誌で、「教科書を『読み物』として読んでみてください」と述べたことがあります。それに賛意を示す形で、その雑誌の編集者のYさんが編集後記で次のように書いてくださいました。

「私にとって教科書は、確かにただ単純に「読む」というよりも、勉強するため(試験のため)のものであり、単語や構文ごとに分解して、その背景に物語があるという感じのものでした。一章ごとに、終わったなという充実感(?)はあっても、面白かったなと思ったことは、ほとんどなかったように記憶しています。高校や大学では、高いテキストを買っていたのに、もったいないですよ。」

Yさんのこの「もったいない」という思いを私たち教師は生徒にもたせてはいけないと思います。

2. 「読み」に引きこまれる教材

さて、*Genius English Readings* の大きな特長のひとつは、その内容面の充実度です。どのレッスンの本文も、上で述べた意味での「読み物」として十分に耐えうるものであることを、私は著作者のひとりとして自負しています。ぜひ一度、実際に手にとって、先生方や生徒のみなさんにこの教科書を「読んで」いただきたいと思います。

たとえば、最初の Lesson 1 ですが、気球による無着陸世界一周の冒険を成し遂げた Bertrand Piccard と Brian Jones のドキュメンタリーです。タイトルはズバリ “Around at Last!”。世界一周という空間的な「広がり」と、そして、父親と祖父もまた冒険家であった Piccard の時間的な思

いの「深さ」とが感じ取れる作品です。彼の、数々の困難を乗り越えて自分の夢を実現する姿に、きっと生徒たちは勇気づけられることでしょう。

あるいは、Lesson 8 の “Mansai de Gozaru” を見てみましょう。タイトルからもわかる通り、現在映画やテレビなどでも活躍中の狂言師野村萬斎さんの生い立ちと彼のさまざまな挑戦や試みについて読み取ります。狂言という伝統的な日本文化を世界に向けて発信し、また、現代という時代といかに融和し、さらなる変化・発展を遂げることができるのか。野村萬斎さんのご自分の「自伝」として、彼自身のことばで語ってくれます。うれしいことに、萬斎さんご本人からこの教科書を使って勉強する高校生へ向けて寄せられたメッセージも掲載されています。

さらに、「他者を思いやる心」は人類にだけ見られるものなのか、類人猿を対象にした実験から、この問いに迫る論説文 (Lesson 11 “Morals, Apes, and Us”) や、心ならずも原爆の開発に加わった物理学者 Joseph Rotblat が、当時の状況を振り返って語る話 (Lesson 12 “The End”) など、かなり「がっちり」とした、読みごたえのある作品もあります。他にも、生徒が読み物として楽しめる題材が揃っています。

3. 「読み」の力をつけるために

次に、*Genius English Readings* の具体的な使い方を述べてみたいと思います。この教科書には、生徒の「読み」の力をつけるためのさまざまな工夫が盛り込まれていますので、以下特にそれに注目しながら、どのように教科書を活用する

かを解説しましょう。

(1) Key Words

各レッスンとも最初の扉のページに5つのキーワードがまとめられています。それらは本文の内容に関するものであり、本文を理解したり、要約したりする上で文字通り「鍵 (key)」となる単語です。本文を読み始める前に、これらのキーワードからレッスンの内容をまず生徒に想像させるとよいと思います。というのは、いきなり英語の長文を読むというのは、生徒のような初学者にとっては心理的な抵抗感が強く、集中力も長続きしません。前もって、大よその内容についてイメージをふくらませることで、英語を読む動機付けができ、また、ある程度予測しながら読み進むことができるというわけです。

さらに、本文読解の後、このキーワードを使って本文の内容を要約してみるというタスクも考えられます。Writingの要素も取り入れることができ、より発展的な英語力育成につながります。

(2) Questions

本文はいくつかのセクションに分かれています。各セクションごとにその内容を問う問題が、セクションが始まるページの末尾に設けられています。質問そのものの理解に抵抗がないように、それぞれの質問は日本語で示してあります。

活用の仕方は大きく2つあります。

① Comprehension questions として使う

セクションのひと通りの読解を終えた後で、正しく内容が読み取れているかどうかを確認するための質問として使います。答えられない場合は、どこかにまだ読みの不十分なところが残っているということです。その点を明らかにして問題を解決するようにします。

② Signpost questions として使う

生徒には、本文を読む前にまずこの Questions に目を通すように指示します。そして、その質問の答えを見つけるべく、本文を読み進めます。その際、多少の未知語があってもいちいち辞書を引いて調べるようなことはせず、また、日本語に訳

そうとして英文の後ろから「振り返り」をしたりせずに、なるべく頭から素直に英文を読み下しながら速読を心がけるように指示すると、それは skimming や scanning の練習になります。

上の①、②のいずれにせよ、Questions はすでに教科書に示されているので、たとえば、生徒が自宅で予習する場合にはどのようにこの Questions を扱ったらよいのか、あるいは、予習を「禁止」して、授業中に初見で②のアプローチで扱ってみるのかなど、事前によく「作戦」を練って、生徒にも指示を徹底させておく必要があるでしょう。

(3) Find

文章を正しく読解するためには、代名詞の照応関係を把握したり、言い換えや省略などに注意しながら文脈を論旨に沿ってきちんと追っていかかどうかがポイントとなります。そのポイントを明示的に示したのが、この Find です。文章を精読する際に「鍵 (key)」となるポイントを「見つける (Find)」、というわけです。各ページの下に、日本語で質問の形で、たとえば、「1.10 it は何を指すか。」、「1.8 Do they の後には何が省略されているか。」といったように示されています。生徒にとっては予習の際の貴重な目安になるでしょうし、私たち教師にとっては、授業中に触れておくべきポイントの目印となってくれます。

(4) Comprehension & Communication

各課とも本文の後には、おおよそ次の観点で post-reading activities が用意されています。

- ①本文の内容に関するリスニング問題
- ②本文を要約する問題や要点の理解に関する問題
- ③本文の内容を理解した上での、さらに発展的なコミュニケーション活動

特に③では、自分の考えや意見を英語で書いたり、あるいは、さらに口頭で発表したりする活動が設定されています。英語の4技能をバランスよく鍛えることで、英語の総合力を伸ばす道筋を教科書を使ってつけることができるのです。「はじめに」でも述べた通り、Yさんの言う教科書の「もったいない」使い方は避けるべきであり、そ

の意味で、これらの post-reading activities をいかに大切に扱うかが教科書を本当の意味で「使っているか」「使っていないか」の大きな分かれ目となると思います。

(5) Expressions & Functions

その課の本文で学んだ重要表現とそのことばの働きを、会話例とともにまとめたコーナーです。

(6) Structures

特に読解の際に役に立つ、あるいは、知っておくべき文法や句読法などの英語の決まりごとがまとめられています。この“Structures”においては従来の教科書でとりあげられていた文法項目から一歩進んだ、次のような項目を盛り込み、「リーディング」の教科書としての特色をかもし出すのに一役かっています。

省略、同格、倒置、強調、挿入表現／名詞中心の表現／ダッシュの用法／コロンとセミコロンの用法／discourse marker(文と文とを論理的につなぐ働きをもつ接続詞や副詞(句))の用法

(7) Exercises

“Structures”で学んだ事項を確認するための練習問題です。特に、2番目の問題(Exercises 2)では、各課ともそのターゲットとなる文法事項が含まれたオーセンティックな文(出典としては、*The Japan Times* や *Alice's Adventures in Wonderland* など、およそ24のさまざまな新聞、雑誌、書籍から採られています)を読んで理解する設問が用意されています。英文としては短いですが、その課で学んだ文法事項が実際の英語使用の場面でどのように使われているかを知ることができますし、また、生徒にとっては面白い「腕試し」のチャンスともなるでしょう。

(8) Vocabulary

読解力向上には語彙力の増強が不可欠です。ここでは、接頭辞や接尾辞に着目させる問題や word formation に関する問題、あるいは、熟語・成句といった決まり文句の習熟を促す問題など、バラエティーに富んだ設問が与えられています。

(9) Tips for Reading

英語を読む際に気をつけておきたいポイントをまとめたコーナーです。たとえば、Lesson 1であれば、『時制』に注意しよう』というタイトルで、実際には過去に起きた出来事でも現在時制を用いて描写する場合があることについて触れ、その理由や効果などについても解説しています。

4. おわりに

私たちは英語の教科書を使って生徒に教えようとするとき、実際には何を教えているのでしょうか。結局は、文法・語法や語彙など英語の「言語的な」側面を中心に教えているのではないのでしょうか。確かにそれも重要でしょう。しかし、やはりそれだけでは「もったいない」と思います。教科書には、上で述べたような、生徒の英語の力を伸ばすためのさまざまな工夫が施されています。それらをまず十二分に活かそうとする姿勢が、私たち教師や生徒にもっとあってもよいのではないのでしょうか。もちろん、教科書に「縛られる」必要はありません。要は、日々私たちの目の前にいる生徒たちの力を伸ばすことです。教科書は、そのためのひとつの「道具・手段」に過ぎません。たかが教科書。しかし、「されど教科書」という部分を私は本稿を通して強調したかったのです。

(はぎの しゅんや・新潟南高等学校教諭)

Readings の指導資料・副教材

◆充実した指導資料

① 教授用指導資料 [2分冊・B5判・定価8,400円]

(1) Teacher's Manual (2) 評価問題集

② 指導用 CD [4枚組・定価12,600円]

③ 指導用 CD-ROM [定価7,350円]

(1) 英単語・熟語自動問題作成ソフト (2) 教科書本文 (3) 日本語訳 (4) 原典 (5) 評価問題集

◆新しい発想による生徒用副教材

① ワークブック [B5判・定価480円]

② Genius 読解力養成問題集 [B5判・定価480円]

大学入試に3回以上出題された長文問題を収録。全訳・要約例・懇切な解説を付し家庭学習に最適。